

団体の概要 (NGO/NPO用)

団体名 高松産業システム研究所

所在地	〒731-0732 広島県東広島市黒瀬町津江 1531 TEL:0823 - 83 - 0589 FAX:082 - 383 - 0589 E-mail:nikougiken@do8.enjoy.ne.jp		
ホームページ			
設立年月	平成 10 年	8 月	* 認証年月日 (法人団体のみ) 年 月 日
代表者	高岡 松水	担当者	高岡 松水
組織	スタッフ 3名 (内 専従 2名) 個人会員 名 法人会員 名 その他会員 (賛助会員等) 名		
設立の経緯	<p>(1) 英国で始まった{トライボロジー運動}の日本での普及は運輸部門で認知されていないので、実績をもって啓蒙して行きます。</p> <p>(2) 地球温暖化防止 CO2 削減対策は国の重要な政策と鑑み、オイルユーザーの立場からソフトウェア技術を研究開発しております。</p> <p>(3) オイルの実証テストには、長期間実車追跡調査が必要で、実績データを作成してすぐに役立つ潤滑技術法を確率しております。</p>		
団体の目的	<p>(1) 地球にやさしい環境技術の発掘をして、その実用技術を研究開発しながら、データで安心でき信頼性を実証する。</p> <p>(2) 三方よしの効果の出せる潤滑改善法を、確立して広く産業界に普及するように啓蒙活動する。</p>		
団体の活動プロフィール	<p>(1) 平成 10 年度より潤滑管理普及活動を開始、工場潤滑診断をして潤滑改善診断書を提出している。</p> <p>(2) 製造マンの潤滑給油活動レベルアップ講座を開催して企業より重宝がられている。</p> <p>(3) SVAP 登録アドバイザーより、日本システムサービス (株) の潤滑アドバイザーでも活躍している。</p> <p>(4) 平成 10~13 年度大型トラックによりエンジンオイル強化剤マッハワン SMZ の実証テストを実施した。</p> <p>(5) 平成 13 年度小型バス - 大型バスにより、オイル強化剤とトリートメント剤ジャスパワーZ の実証テストを実施した。</p> <p>(6) 平成 14 年度よりコーゼネ発電機のオイル強化剤の実証テストを実施した。</p> <p>(7) 自前のデータでオイル分析し、環境にやさしい効果と経済的メリットを数値で評価するノウハウを確立している。</p>		

活動事業費 (平成16年度) 50万円

政策のテーマ 日本エコトライボロジ－運動の提唱とトラック&バスのCO2削減対策実施

政策の分野

- ・循環型社会の構築
 - ・地球温暖化の防止
- 政策の手段
- ・調査研究、技術開発

団体名：高松産業システム研究所

担当者名：代表 高松 松水

政策の目的

- (1) 日本で開発されている潤滑技術を活用して、運輸部門のCO2上乗せ削減量500万トン（実績より試算）以上の掘り起こしが、可能な実施対策法を提言する。
- (2) 新潤滑技術（市販のオイルに添加剤を投入して高性能化）は一部の企業で使用されて実績は評価されている。国内の大型トラック&バスのディーゼルエンジンに導入すると、燃費が向上（軽油削減約8%可能）する。
- (3) 日本型（エコ）トライボロジ－運動を提唱して、新潤滑技術を地球温暖化推進大綱に盛り込み、国のCO2削減対策として推進する。

背景および現状の問題点

- (1) 現行の運輸部門の地球温暖化対策推進大綱に潤滑管理技術の改善対策は取り上げられていない。新潤滑技術は関係3省の管轄にまたがる事です。
- (2) オイルユーザーは潤滑管理技術の見直しはしない傾向にあるので、企業にメリットが出ることがあっても、専門的分野でガードは固く守られている。
- (3) 新しいオイル（製品&技術）が開発されても信頼性を得る実証テストには長期間の耐久テストを要するので、オイルメーカー主導で実施されている。
- (4) 京都議定書のCO2排出量6%削減する国際的な約束を果たし、その上現状のCO2排出量8%オーバー分をクリアーするために、国で新たな上乗せ対策が急務です。

政策の概要

- (1) 地球温暖対策推進大綱に、新潤滑技術を盛り込んだ対策項目をCO2削減実施上乗せ対策として追加する。
- (2) 環境技術評価として、第1段階では公的機関で、提言者の提供する新潤滑技術を施工して、長期間（3ヶ月以上）の実証テストを実施して公表する。
- (3) 第2段階として、このテスト実績をもとに日本型エコトライボロジ－運動を企画する。広く産業界にPRし、オイルユーザーの初期不安要因を解消する。
- (4) 第3段階、新潤滑技術を導入するトラック&バスには、登録制度と初回導入追跡テストをする場合の助成制度を設けて、普及させる。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

- (1) 国の環境技術実証モデル事業制度（環境省管轄）を参考に流用して、国土交通省で遂行されている地球温暖化対策推進大綱の運輸部門でのCO2削減対策に組み入れて実施する。
- (2) 日本型エコトライボロジー運動を広げるため産官民の関係有識者で編成するプロジェクト会議で内容を検討して、立ち上げる。
- (3) 新潤滑技術の信頼性と導入実施効果を確認するため、耐久実証テストを公的機関と共同で実施して、そのテスト結果を公表する。
- (4) 耐久実証テスト工程表

1ヶ月目 2 3 4 5 6

(一)テスト車準備

(二)オイル添加剤
投与スタート

(三)サンプリング

(四)燃費実績調査
CO2削減

(中間)

(まとめ)

- (5) この耐久実証テストのデータを分析して、データベースを作成して運輸部門の大型トラック&バスのCO2排出削減量を算出する。
- (6) 国の地球温暖化対策として必要なことを、全国（各県）トラック&バス協会に提出して協力を求める。

政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

- (1) 新潤滑技術に関する環境改善対策提言は、NPO活動をしている当研究所しか出来なかったことで、この6年間にトラック&バスで実車耐久テストして、ソフト面の技術データを整え進行している。
- (2) この耐久テストのオイル改質添加剤は、日本システムサービス（株）製で商品名マッハワンSNZを選択して使用している。
- (3) 新潤滑技術のポイントは、市場のエンジンオイルを高性能化する改質添加剤のブレンド技術です。オイルのユーザーが現場で使いこなせるようにしたソフト技術と合わせることで、企業には投資なき改善で収益をだせる。
- (4) オイルの特性上現場に最適なオイルの開発は遅れており、各ユーザーの整備工場に自社技術の見直しをするよう呼掛ける企業の努力も必要です。
- (5) ここに提言する新潤滑技術は、いまでも産業界で埋もれており、業界の事情を超越した地球温暖化防止の要請のもとに、国として産業界に実績評価を啓蒙し、上乘せCO2削減対策として取り上げる時世にきている。

政策の実施により期待される効果

- (1) デーゼルエンジン車のエンジンオイルを添加剤で高性能化すると、導入使用効果として走行燃費が向上する。
(軽油使用量削減率3~12%)の実績)
- (2) 軽油の低減量よりCO2排出削減量を算出し、国内の集計して公表する。
(国内のCO2削減試算量は年間500万トン可能)
- (3) 市場のエンジンオイルに添加剤をブレンドすると、オイルの使用寿命を4倍まで延長できる。オイル交換周期も長くなり回数も増える。
(交換廃油量が4分の1に減少)
- (4) 産業廃棄物となる廃棄オイルエレメント量が4分の1に減量する。
- (5) CO2排出削減のほか、企業収益改善になる経費低減が計れる。
(大型トラック1車の経費低減試算額年間15.5万円)

以上の通り三方よしとなる期待される効果を、実証テストを実施しオイル技術データと数値実績により、評価して役立てる。

その他・特記事項

- (1) 国の環境改善対策で、低硫黄化された軽油が使用されるようになった。
ディーゼルエンジンの内部では硫黄分の減少で潤滑効果にも影響があり、事前の補強対策として新潤滑技術の導入は有効です。
- (2) 新潤滑技術対策に使用するオイル強化剤は、開発製造メーカー 日本システムサービス(株)のものを使用する。PL法の適用と損害保険に加入して1件5000万円の保証が付いてくる。
- (3) 最近の原油価格の高騰は、産業界を直撃して困っている。輸入資源の減量にもつながる日本型エコドライブ運動と日本で開発された新潤滑技術の活用を国の環境政策として取り上げ遂行するよう提言する。

